第4回目は、都立国際高等学校で、教育支援コーディネーターとして活躍されている、特別非営利活動法人NICe（Never-ending International WorkCamps Exchange）日本国際ワークキャンプセンター「下にNICe」という。の取材を致しました。

都立国際高等学校では、「社会の一員としての自覚や責任感を身に付けること」や「国際理解教育を通じ、将来地域社会に貢献できる資質を育つこと」を目標に、1年3次に「奉仕」の授業を行っています。

NICeは、11月から12月にかけて、30校、授業の支援を行いました。

【11月13日（火）・特別講演会（事前学習）】

NICeグループワークキャンプ事業部の矢野 美和子さんから、熊本県で行われた国際ワークキャンプ活動の紹介がありました。

国際ワークキャンプとは、世界の若者が酒田広志に携わり、住民たちと共に、環境・文化保全、福祉、農村開発などに取り組む国際ボランティアプロジェクトのことで、世界中の人たちが、日常生活をしながら、ボランティア活動を行なって、地域の問題解決に貢献するものであると説明されました。

次回から月の後半授業で行う、アクリルとあそびの意義について、話がありました。

アクリルたわしは、アクリル100%の毛糸で編んだものです。洗剤を使用しても変形がおこらないことから、水質保全にも役立ち、環境に負荷がないと言われています。

生徒たちが持ってきたアクリルたわしを、海外で国際ワークキャンプに参加するにあたって、実際に使っていきました。自分たちがつくったアクリルたわし、環境に良いものとして、世界のどこかでメッセージと共に受け取られる、実際の役に立つ活動であることを学びました。

【12月4日（火）・大学生及び社会人による国際ワークキャンプ体験談】

6クラスそれぞれ、2名のNICeのスタッフが交代で外国でのボランティア活動の体験談を語りました。

ここでは、坂 茂松さんと田島 寛久さんの体験談を御紹介します。二人の話に、生徒たちの興味を持ち、心温まったようでした。

田島 寛久さんの体験談（インド）そして、メッセージ

インドでは、ソーラー発電などの必要最低限の電力しかない、オーローラという地域で、植林のボランティア活動を行いました。ご飯の炊き土間おろし肥料をつくり、トイレの大サイズを床に貼り付けるなど、現在の日本の石にかかる研磨剤を手伝いに来ました。ソーラーも、大きさ小さいバッチに入れた石をずれて、誰かがお手伝いした生活でした。

自分が住んでいる田方は、新しい nid を住人になりたい皆さんを、大好きな人によ nim り、ライフスタイルを大切にしながら、その道で進んでいくことを願っています。

【12月21日（金）・アクリルだわし】

3時間かけて、生徒たちはアクリルだわしを作りました。生徒たちの協力もあり、初めて作ることができました。NICEからは、大島さんと大学生2名が関わりました。各クラスをまわり、これから続く国際ワークキャンプでのどのような活動をするかを話し、生徒のアクリルだわし作りのモチベーションを高める役割を果たしました。

大学生2名は、生徒たちがつかったアクリルだわしを、国際ワークキャンプ地で使い、地元住民や、他のボランティアにも紹介する予定です。

【担当された・穴場 美和子にお話を伺いました。】

○ 都立国際高等学校の教務「奉仕」の目的や、大学進学におけるニスが立場の支援を行うことによって、生徒たちの手がかりを見つけることができるのではないかと考え、今回の取材に携わった。

○ 都立国際高等学校の生徒たちに、ど厚あやや私たちの話を聞かせて、授業の支援を行う中で、特に学びを楽しむ人が増えるという。

○ 高校一年生にとって、少し驚く発見である大学進学が話題、海外ボランティア体験談は大変興味深いものだったと実感しました。授業を終えて、個別に質問に応じて、道に尋ねる生徒が大勢いたので、特に印象に残ることでした。

これからもNICeの活動が、大学進学に役立つことや世界とつながることを生かし、より良い授業の支援を行っていくことを見つけました。

【連絡先】特定非営利活動法人NICe（日本国際ワークキャンプセンター）
〒160-0022 新宿区新宿2丁目1番14号エレメリス新宿ビル401
電話 03-3358-7140 ファクシミリ 03-3358-7149 URL http://nice1.or.jp